

少しずつ私に対して心を開いてくれて。マネージャーさんからは、まだ逃げている状態ですけれど、徐々にいろんな人に頭を撫でられても平気になってきました」

アヴィちゃんが新しい環境に慣れるまで、5年かかることも、覚悟していたという。



浅田はアヴィちゃんに「運命」を感じて引き取ることにした

浅田美代子

55

2年前

殺処分前で救った犬が いま私の心を支えています

涙の日々を癒してくれた「愛犬生活」を全告白

「しつぽをクイクイと振りだしたときとか、初めて吠えたときとか、いちいち感動しましたね。えっ、こんなハスキーな声だったんだと。」

アヴィちゃんを引き取って育っていく姿を見てみると、本当に子犬から飼うよりも感動が大きかった……。特に殺処分前だったので、こんな子が日々処分されていると思ったら、やっぱり私も行動しなきゃ、と思っただけです」

現在では、以前からいる19歳のご長寿犬・桃太郎くんとも仲よし。

「なんだか、自分が守られている立場から、私を守る立場に変わってきたと思うんです。宅配便などが届いてチャイムが鳴ると、まあ「ワンワン、ワンワン」吠えて玄関に向かうんです。ああ、こんなに元気になったんだと、うれしくなります」

ようやく彼女に、いつものスマイルが戻った。元気がなった愛犬に、いまは、彼女が

日々の元気をもらっているという。

そんな彼女と肩を並べてデモ行進していたのが、藤野真紀子・前衆議院議員(61)。

6年前に引き取り、昨年末に死んだ保護犬・チビちゃんの写真を胸にデモ開催の挨拶もしていた。

藤野前議員には、忘れられない光景がある。

「私が命を救ったはずなのに、引き取った直後、チビちゃんは、私のことよりも飼い主さんを恋しがっていた。捨てられたにもかかわらず、飼い主さんに向けて、遠い空を見つめて3日間、遠吠えをしていたんです」

動物愛護を訴えていた背景には、そんなペットたちとの切ない思い出があった。浅田は最後に、こう訴えた。

「私が1頭救ったように、そういう人々がどんどん増えれば、何百、何千頭もの命が救われる。願いは、いつか殺処分ゼロになることです」

デモを終えると、浅田は急いでアヴィちゃんたちの待つ自宅へ。そろそろ夕方の散歩の時間だ――。